



皆さんこんにちは。2024 年度 SSH 通信作成委員です。この SSH 通信では、本校の SSH プログラムの 1 年間の活動をお伝えしていきます。

第 7 号では、2025 年 1 月 14 日（火）～15 日（水）に行われた韓国（チョナン）訪日研修について紹介します。

<韓国（チョナン）訪日研修 @本校>

〔研修の概要〕



昨年 7 月に韓国にあるチョナンチュンアン高等学校で行われた研修で一緒に学んだ生徒を含む 32 名が来校し、再会を喜びながら、終始和やかな雰囲気での研修となりました。

1 日目は開講式をし、本校の樋口洋仁先生による生物の授業で日本でも韓国でも馴染みのある漬物を使った実験を行ったり、本校の森脇政泰先生による数学の授業でシンプルな数式を使って様々な形の図形を作るという活動を行いました。その後、お

互いの学校で進めている課題研究のポスター発表を行いました。

2 日目は 1 日目と同様のポスター発表を行い、1 日目には時間の関係で聞くことができなかった発表をすべて聞くことができました。両日とも研究発表の際は英語で活発に議論が進み、とても刺激的な経験となりました。閉講式の後には写真撮影を行い、別れを惜しみながら終了しました。

〔共同授業（生物）の感想〕

・実験を通して食品に含まれるビタミン C の量や、ビタミン C を減らさない調理について考えられたので良かった。

・1 個 1 個の手順は簡単だけど、協力して話しながら進めないといけない実験だったので、より交流しやすかったです。また、実験内容もおもしろく、自分も楽しみながら韓国の方たちと実験することができました。

・調理方法によるビタミン C の変化というテーマが面白かった。やりやすい実験で、日本の食文化を伝えるという点でもすごく楽しい授業だった。英語になると一気に理解が追いつかなくなるので、科学をよりグローバルに捉えられるように勉強したいと思った。

・ぬか漬けにすると風味が変わる理由を科学的に学習できたので良かったです。

・漬物にすると、発酵によって酸味が出てくる仕組みがわかった。実際に実験することで韓国の人たちとの交流が増えた。



〔共同授業（数学）の感想〕



・グラフの形や数式は言語が違う韓国の生徒達とも共通して通じるものなので、なかなか打ち解けることが出来ていなかったチームのメンバーとも楽しく参加することが出来た。

・思ったよりもたくさんの図形を自分が知っている関数で描くことができるのが驚きだった。逆に、シンプルに見える図形でもグラフで表すのが意外と難しいものがあり面白かった。

・前半は簡単な問題が多かったが、後半になるにつれて簡単には答えの出せない問題が続き、難しかった。なぜそのような関数で思い通りの図形が描けるのかを考えるのが楽しかった。

・関数などを見つけるのは難しかったけど、お互い話することができる内容だったのでたくさん話すことができました。また、同じグループの子がわかったらみんなで「すごい！」となったりして楽しかったです。

・アルファベットを座標で表現するのはとても難しかったです。韓国の生徒さんたちは「どうやって見つけたの？」というぐらい不思議で難解な式をたてるのでびっくりしました。自分の考えを英語で伝えるのはとても大変でした。しかし、韓国の生徒さんたちがとても熱心に自分の考えを示してくれると同時に、こちらの考えも聞いてくれるので、たくさん交流することができ、仲が深まりました。

【ポスター発表で得た学び】

・自分たちの研究で使用する液の種類で何が良いか悩んでいたが、韓国の生徒の研究を見て、アイデアが浮かんだ。

・私たちと同じ藻類の研究をしている韓国の高校生と交流し、刺激を受けた。

・英語を使っの発表は自分達が難しいと思っていなくても、伝わりにくい部分が多いということに気づけて、聞き手の立場になってポスターの内容や発表態度を考えることができた。他の分野の研究にたくさん触れて、グローバルに考えることができた。

・原稿を読むのではなく、反応を見ながら発表すること。韓国の人の発表を聞き、分からないことがあったら質問をして理解を深めることが出来た。

・自分たちの研究に至った理由や結果考察などについての質問が多く、新しい視点を得ることができた。以前よりも研究がお互い進んでいてさらに頑張りたいと思った。



【研修全体で得た学び】

・韓国の生徒との交流は、私にとって貴重な体験となり、素敵な思い出になりました。もちろん、研究プレゼンテーションを通して、自分たちの研究をより深めることを頑張ろうと思ったことも理由の一つだが、何より国境を越えて、同じ世代の人達と友達になることが出来たのが何よりも嬉しかった。短い間だったが、韓国の生徒とたくさんの思い出を作ることが出来た。この先このように国や地域を超えた交流に積極的に参加してみたいと思うきっかけになった。

・普段英語を勉強していても、いざコミュニケーションに英語を使うとなると、難しいものがあるなと思った。しかし、話すことでしか得られない力もあると思うので、今後とも、英語でのコミュニケーションやポスター作成を頑張りたい。

・英語での発表・会話が不安だったけど、実際に話してみるとなんとか言いたいことを伝えられた

ので良かった。また、発表の際に先生方から研究について助言をもらったのでこれからはそれも参考にして考えて行きたいと思った。

・やはり韓国の人たちは日本と違うところがたくさんあって、その違いを発見するのがとても面白かったし、日本のアニメや食など相手が知ってくれているのが嬉しかったです。この研修を通して、自分たちの研究に役立ちそうなことをたくさん学ぶことができたし、何よりも韓国の方たちと様々なことを一緒に行って、たくさん交流し、たった二日間でしたが仲良くなったことがとてもうれしかったです。楽しく実りのある二日間でした！



【次年度以降の後輩へのアドバイス】



・中間発表から交流までほとんど期間が空いておらず、発表（交流）の内容はほとんど中間発表と同じ内容になると思っておいた方が良い。冬休みの段階で英語ポスター及び原稿はほとんど完成するくらいのイメージでないと、満足いくものは作れないと思う。

・後悔しないように、積極的に韓国の生徒に話しかけるべき！研究プレゼンテーションはわかりやすさを意識すると、相手からの質問や感想を貰いやすい。日本に初めて来る人も多いので、お勧めのお菓子を聞かれることがある。事前に考えておくと話が盛り上がる。

・プログラムの準備、特に韓国の方に伝わるようなポスターの工夫や発表の工夫などは、しっかり時間をかけて準備した方がいいです。専門分野以外の言葉は意外に難しいです。プログラムが始まったら、あっという間なので、臆せず、ぜひ交流を楽しんでください。

・与えられたプログラムは読み込んでおこう。皆、英語が堪能でプレゼンテーションも上手なので、練習（特に化学式などの専門用語の発音）はしっかりしたほうが良い。

・自身の研究に難しい単語が含まれる場合、韓国語での表現も調べておくとうれしいと思った。

韓国の生徒との共同研修を通して、幅広い価値観を持った人たちとのコミュニケーションの大切さを実感し、これからの研究に向けて視野を広げることができました。

第8号では、2025年2月16日（日）から行われるタイ訪日研修について紹介する予定です。